

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
28

2012

◎特集 理想の病院を目指して



患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

偉大なる病院 The Great Hospital をつくろう

病院長 檜垣實男 医師

大学病院の担う診療と研究、教育といふ役割は、ますますその重要性を増してきています。大学病院は地域医療の砦であり、難しい病気をもった患者さんに生きる力を与え人生の夢を託せる場所であるために、先進的な医療やトランスレーショナルリサーチに基づいた新しい治療法を研究・開発し、医療のレベルを向上させていくことが私たちの使命です。教育の面では、優れた医療人の育成が求められています。学生への「卒前教育」と共に「卒後教育」にも力を入れ、名医を育てていかなければなりません。看護師や薬剤師、検査技師など総ての医療スタッフについても最高水準を目指し、一人ひとりのパフォーマンスの質を上げていくための教育システムを推進する必要があります。

こうした従来からの使命に加え、地域貢献、国際化への対応も重要なものになってきました。医療崩壊と言われるような地域医療の現状に対して、人材や機材を供給し、地域の皆さんに豊かな医療を提供し続けていかなければなりません。また今後、医療の世界も国境のない時代になります。大学病院も世界に開かれた、世界中から患者さんを呼び込めるような場所を目指して、人材の育成、医療レベルの向上に取り組む必要があります。

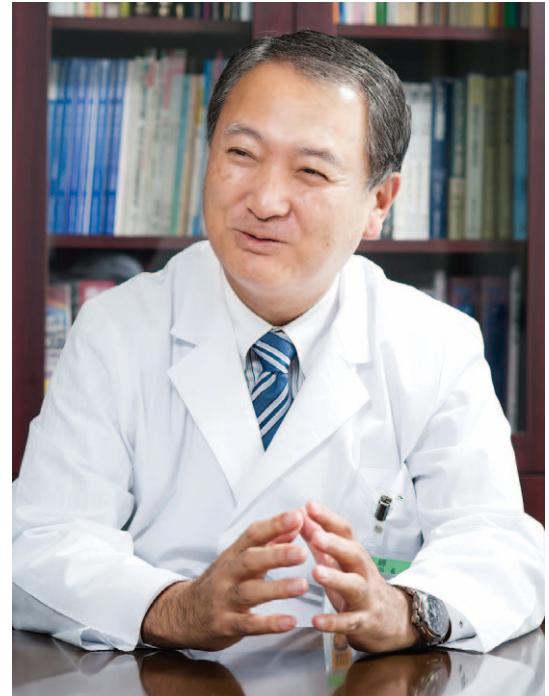
大学が法人化されてから、当院では様々な取り組みを行ってきました。医療の面でも経営の面でも、取り組みの成果は十二

分に出てきています。当院の最大の強みはスタッフの志気の高さですが、対外的にも大学病院に対する信頼感が高まっているのを感じます。患者さんの数も増加していますし、医療界でも非常に高い評価をいただいている。しかし、上手くいっている時こそ将来の問題の種は芽生えているはずです。これから問題となるものを探し出し、早期に手を打つことが私の役割だと考えています。例えば、スタッフは非常に熱心に働いてくれていますが、彼等がライフワークバランスをうまくとりながら充実した人生を送っていく様な体制になっているかを検討する必要がありますし、男女共同参画という点でも、特に女性が仕事を続けやすくするため

の支援をますます進めいかなければなりません。現在各部門から様々なプロジェクトやアイデアが出てきていますが、そういったものを単なる希望に終わらせず、実現可能な計画・企画へ落とし込んでいく。病院というものが一つの社会として上手く動いていくように、マネジメントし、調整をしていくことが病院長の仕事だと私は考えています。

現在、外来棟の工事が行われています。

この様なインフラの整備をチャンスにして、病院をより良い環境へと変えていきたいと考えています。接遇の質を上げたり、患者さんの動きがスムーズになるようにして待ち時間を見らすようにするなど様々な改善をしていきます。現在、看護部を中心に「入退院支援センター(仮称)」の開設も進めています。入院



PROFILE

ひがきじつお◎1953年愛媛県生まれ。1978年大阪大学医学部卒業、1998年7月大阪大学加齢医学助教授。2002年5月から愛媛大学第二内科教授。その後、大学院病態情報内科学教授、副病院長(企画経営、企画総務担当)を経て、2012年4月1日に病院長就任。趣味は読書、ドライブ。

から退院まで、そして退院後の地域の病院に転院した後まで、サポートの手を差し伸べができるよう人的または情報のインフラを整備しています。患者さんに切れ目のない医療を提供するために、全県に医療の手、根を広げ、患者さんが本当に快適に安心して医療を受けられるような体制を作りいかなければなりません。

当院の理念の下「すべては患者さんのために」ということを考えた、夢の病院をつくることが私の願いです。大学病院は大きな力をもっています。患者さんの苦痛を取り去り、患者さんを助けるということ以外にも、県や医師会とタッグを組んで広域災害に備えるなど、皆様に安心して生活していくことで県全体を医療的にも経済的にも底上げできる力をもっています。今後も、患者さんにより良い医療を提供し、また愛媛県の発展に貢献すべく、職員が一丸となって取り組んでまいります。



外来棟改修後のパース図

「内視鏡手術支援ロボット」—— 最先端の医療を提供

副病院長 渡部祐司 医師



PROFILE

わたなべゆうじ◎松山生まれ。消化管・腫瘍外科学教授、低侵襲・がん治療センター長、副病院長。1983年愛媛大学医学部卒業。1988~90年まで(西)ドイツ留学で肝臓移植の臨床・研究を学ぶ。その後、内視鏡手術導入のためアメリカで研修を行い1991年より内視鏡手術を開始。食道、胃、大腸がんの内視鏡手術が専門。趣味はギター、料理。

今年、当院に「内視鏡手術支援ロボット da Vinci (i ダヴィンチ) Sタイプ」が導入されます。腹部または胸部に1cm程度の小穴を数ヵ所作製し、そこからカメラと鉗子を挿入し、術者は患者から離れた位置でロボットを遠隔操作して手術を行います。従来の内視鏡手術では、お腹の中を平面画像で見ることしかできませんでしたが、この手術支援ロボットを用いれば3次元画像で手術領域を見ることができます。また、ロボットを操作する手の動きと患者側の手術器具の動きがコンピューター制御されることにより、非常に精密な手術が可能となります。ロボットアームは複数の関節をもつため、人間の手では不可能な動きも可能です。更に手術をしながら、瞬時に見たいところをズームすることができます。今までの内視鏡手術のすべてをカバーしつつ、今まで以上に精密な手術を可能とするのが「内視鏡

手術支援ロボット」なのです。

患者さんには、手術支援ロボットを用いた手術を行うか否か、十分な説明をした上で選択をしていただけるようにします。前立腺がんにはこの春から保険適用となりましたが、それ以外の臓器・疾患に対するこの手術のメリットについては、十分に説明したいと考えています。内視鏡手術支援ロボットは、すでに欧米では多数行われておりますが、日本の技術が随所に搭載されたこのロボットを日本では十分に使える環境はありません。このような新しい技術こそ大学病院が率先して取り入れ、多くの病院で安全に施行できるよう推進してゆかねばならないと考えます。新しい手術や治療法の開発は大学病院の使命でもあります。新しい取り組みを通して患者さんに最先端の医療を提供するとともに、世界に冠たる日本の外科技術を更に発展させてゆきたいと思います。

INVITATION TOPICS

第23回愛媛大学医学部関連病院長会議を開催 ~平成24年3月10日~

この会議は当院と人事交流がある県内外の関連病院長、当院の基礎系及び臨床系の教授、中央診療施設等の部長等が構成員となっている会議で、年に1回総会を開催しています。総会では、安川正貴医学系研究科長から「医学部の現状と将来計画について」と題し、医学部の現状及び今後の計画について説明がありました。また、横山雅好医学部附属病院長からは「病院の現状等について」と題して、当院の詳しい説明を行いました。続いて「研修連携協議会」「先進医療連携協議会」「地域医療連携協議会」の3

つの部会からそれぞれ報告があり、参加者は熱心に傾聴していました。総会後は、当院の那波明宏産婦人科教授から「婦人科癌治療の現状と将来展望」、同じく当院の泉谷裕則心臓血管外科教授から「心臓血管外科の現状と展望―大学病院の取組みと使命―」と題した講演会を行いました。

講演会終了後は会場を移して懇親会が開かれました。参加者同士で病院運営に関する意見を交換したり、地域医療の近況を報告したりするなど県内の主要な医療機関の長が交流を深める機会となりました。



地域に根差した医療人の育成を目指す

医学系研究科長 安川正貴 医師



平成24年3月、医学部に医学部学生・研修医宿舎「あいレジデンス」が完成しました。部屋は従来の学生寮よりもスペースを広くし、またセキュリティにも配慮した、入居者が快適にそして安心して暮らせる環境となっています。共同生活をし、多くの時間を過ごす寮は人間形成の場でもあります。学生はここで生涯の友をつくり、当院や県内で活躍する医師に続くよう、地域に根差した医療人になってほしいと願っています。愛媛大学で教える先生方の、教育に対する熱意は高いものがあります。目標に向かって進む学生がその情熱を感じ、愛媛大学に入学して良かった、卒業後もここで働きたいと思える教育環境づくりに取り組んでいきたいです。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

ハッピードールプロジェクトの開催



平成24年2月10日(金)、小児病棟プレイルームにおいて当院に入院中の子どもとそのお母さん19人が手作りの人形制作を行いました。これはNPO任意団体ワンダーアートプロダクションが、全国各地の医療現場で実施しているものです。2時間余りで可愛らしい人形ができました。これらの人形は当院で約1ヶ月間展示し、次の病院へ巡回。本年12月に、全作品を収録した作品集と共に作成者本人にクリスマスプレゼントされる予定です。

医療サービス課医療福祉推進チーム
089-960-5099 089-960-5037

患者図書室全国会議の開催



平成24年3月16日(金)、NPO「医療の質に関する研究会」による患者図書室プロジェクト第3回研究会が全国25病院39名の参加を得て開催されました。本研究会では、患者さんへの情報提供の場としての患者図書室のあり方について各病院の取組を紹介。また「利用しやすい患者図書室とは」をテーマに映像コンテンツを使った医療情報提供で、更に利用しやすい患者図書室を目指そうと熱心に意見交換がなされました。

医療サービス課医療福祉推進チーム
089-960-5099 089-960-5037

地域眼科学講座の開設

このたび「地域眼科学講座」という寄附講座を立ち上げ、新たなスキームで地域医療支援を目指すこととしました。本講座は地域医療支援部門と地域拠点再生部門の二つからなります。前者は、県立南宇和病院の手術機能を維持し高齢者医療を守ること、後者は地域の眼科拠点病院(白井病院)を起点に高度な眼科医療を提供し医療レベルのアップを図ることを目標としています。医師不足の中、大学に残された人材を活用し、地域医療の活性化を図るユニークな取り組みではないかと考えています。どうか、その成果にご期待ください。

視機能外科学講座(眼科学)
089-960-5361

編集後記

みなさん今日は。2012年の春季号をお届けします。編集後記を書いている窓の外では満開の桜が咲き誇っています。昨年は大変な年でしたが、私たちの強い絆を確認した年でもありました。今年はこの桜のように新しい命に溢れ、希望と喜びに満ちた日本にしていきたいですね。当院も外来棟新築のスタートに合わせて、より患者さんに喜んでいただける諸改革、神の手と呼ばれる手術支援ロボットの導入、職員のパフォーマンス向上のための諸施設増改築など新芽が一時に萌え出るような動きが始まっています。次号からは高田清式先生(表紙写真)が新編集長となって新たなバージョンが始まります。これまで同様よろしくお願い致します。

病院長 檜垣實男

◎表紙

総合臨床研修センター長 高田清式
看護部長 田渕典子
新人研修医、看護師
— 臨床第一講義室 —



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>